

令和８年度第２回清瀬市社会教育委員の会議 議事録

令和８年度第２回清瀬市社会教育委員の会議が令和８年８月７日に開催された。
出席委員、議事の概要は次のとおり。

日 時 令和８年８月７日（金）午前１０時から１１時４５分まで

開催場所 清瀬市役所本庁舎 ２階 市民協働ルーム（対面開催）

出席委員 （対面参加）
倉持議長、西田副議長、松山委員、渋谷委員、玉置委員

欠席委員 永嶋委員、大野委員

事務局 生涯学習スポーツ課 山本担当課長、上竹係長、成田

文化協会 近藤会長

次第

１ 開会

２ 議題

- （１）社会教育団体の補助金について
- （２）不登校支援のネットワーク・フォーラムについて
- （３）清瀬市生涯学習基本方針の更新について

３ 報告等

- （１）東京都市町村社会教育委員連絡協議会第１回理事会について

４ 閉会

（倉持議長）

それでは、令和８年度第２回清瀬市社会教育委員の会議を始める。
議題１、社会教育団体の補助金について事務局よりご説明をお願いしたい。

（事務局）

社会教育団体の補助金について、社会教育団体へ市からの昨年度補助金としては、清瀬市文化協会と清瀬市体育協会に対して行っている。今年度も両団体から同様の補助金申請があったため、ご審議いただきたい。

まずは、清瀬市文化協会への補助金について、文化協会の近藤会長にご出席いただいたので、補助金申請目的や昨年度の実績、今年度の申請内容などのご説明をお願いしたい。

(近藤会長)

清瀬市文化協会については、今年も10月31日と11月1日の2日間にて文化祭が行われる。多様な団体が様々な会場で様々な活動をされている。

補助金は毎年61万7700円を申請しているが、足りないものは自分たちの会費と一般参加者がたくさん参加しているので、その参加費で賄っている。

補助事業の目的については、清瀬市民の文化的向上をはかり、情操教育の実践と市民相互の親睦をはかること。内容としては、清瀬市民文化祭の開催。一般参加者、特別参加者を募り幅広い世代に参加を呼びかけ、年間をとおして活動を行っている団体に支援、援助を行いたい。

効果については、地域社会の活性化、高齢者の生涯学習につながっていると思っている。

会員数については、やはり高齢化により減っている。会員数は313名で、こちらについては会費をいただいた人数である。また、今年も一般参加者を呼び、展示と舞台で360名ほどの一般参加者が参加予定。こちらの人数については年々増えている。未就学児や小学生の子どもたちがたくさん参加してくれるようになった。今は小学生も3年か4年でダンスが取り入れられているようで、そこで子どもたちがダンスを習っていて、発表する場として文化祭に参加している。

来年の予算も、61万7700円を申請させていただいた。ただ、補助金だけではとても足りないので、初めての試みとして今年はプログラムに広告を載せ、商工会議所の協力を得て、商店街や色々なお店などに声をかけて広告を出してもらった。それが結構な副収入になったので、今年は古くなったのぼり旗の購入や各団体に援助していきたいと思う。

清瀬文化協会の規約に活動補助金第20条、市民文化財の活性化及び清瀬市民への体験学習、福祉ボランティア活動などの企画及び実施に対して、活動補助金を無三大で支給すると書いてある。今までできなかったが、さらに文化協会や団体の活動が活発になるように少しでも活動補助金を支給していきたいと考えている。

(倉持議長)

ありがとうございました。一般参加者の若い子どもたちの層が増え、保護者や祖父母が見に来るということは嬉しい。

文化協会の近藤会長よりご報告いただいたが、何か質問はあるか。

(松山委員)

予算について、収入の部の年会費が17団体で算出されているが、会員数が360名となっているが、313ではないか。

(近藤会長)

これはあくまでも予算案として、これぐらい増えてほしいということで少し多めに算出

している。

また、文化祭では舞台の部門と展示の部門を行い、今年は参加費を1人500円ではなく、説明の上でご了解いただき、1団体1,000円とした。17団体の内訳は展示部門が7団体、舞台部門が9団体。まだ参加するかはっきりしないところが1団体ある。1人500円となっているが、一律500円ではなくなった。

(松山委員)

内容に変更があるということか。

(近藤会長)

修正がある。年度当初に立てた予算のため、実際の会員数はもう少し減っている。

逆にこの一般参加費の方は、当初見込んだ人数より多くの参加者が実際には参加されている。

(松山委員)

何を心配しているかということ、今会員数が減っている状況で、年会費の収入が若干減ることが予想される。そのときに、予定されている支出の部分が上がるのではないかと心配。ただ、今の話だと一般参加費でもう少し増えるということか。

(近藤会長)

舞台が230名で計算しているが、今のところ310名くらいになる見込み。最終的な人数はまだはっきりしていない。

年会費については、去年は1人200円だったが、今年から1人500円とした。今まで何とかやり繰りしてきたが、何かを行おうとするとやはり支出が増える。この年会費を団体の活動費に充てている。

(倉持議長)

ありがとうございます。先ほどご説明のあった、足りない分を集めることと、集めた分の使い方というところで、のぼり旗を新しく作り直したり、団体への支援に使ったりなどということ。

今は物価があがっている。今年から郵便代やプログラムの印刷費などが上がっているということで、年会費を200円から500円に上げた。上がる率は高い気もするが、最初から500円と聞くと、手頃な金額かと思うので、一緒に作っているのだということで、ご負担いただくことにしたという認識か。

(近藤会長)

以前の会長が切り詰めて、簡略や範囲内で、自分たちの役員の持ち回りなどで、出来る限りのことをやってきた。

(倉持議長)

補助金の金額は変わらないが、そのように自助努力をさせていただいている。

他に何か質問はあるか。

(渋谷委員)

先ほど、松山委員からもあったように、これは年度末に立てた予算案ということなので、決算報告書に先ほどの広告代なども入ってくるということか。年度末では広告を入れようという案はなかったが、4月に入って色々と予算を組む中で、広告を取った方がいいという話。決算報告書のときに広告代が入るのを楽しみにしておきたい。

(倉持議長)

新しいことにチャレンジしているのは素晴らしいこと。

他にご質問はありますでしょうか。

(玉置委員)

私は社会教育委員ですが、体育協会にも所属もしている。参考までに、パンフレットにこのような枠を1つ入れるのにいくらとかで広告費を取ると思うが、参考として、1枠いくらでスポンサーは利用しているのか。

(近藤会長)

プログラムがB5サイズ。少し枚数を減らして出しているが、広告枠は名刺サイズで5000円。名刺サイズの半分が3000円。名刺サイズ2枚分が1万円。1面というのが4万円。利用者のほとんどが名刺サイズの5000円で、皆協力してくれている。

(倉持議長)

企業や商店など協力してくれるというのは有り難い。

では、文化協会への補助金交付について承認ということで異議はないか。

(一同、異議なし)

(倉持議長)

それでは承認とさせていただきます。

では、次に体育協会の説明を体育協会の委員でもある玉置委員からお願いしたい。

(玉置委員)

体育協会からは3つの補助金等交付申請書を出している。

まず1つ目は、令和8年度清瀬市体育協会の補助金ということで清瀬市体育団体活動事業補助金交付要綱第2条に規定された事業として、清瀬市体育協会の活動運営に伴う経費。効果としては、加盟各団体の主催事業実施により、会員相互の技術の向上及び生涯スポーツの振興を図るとともに、清瀬市体育協会に寄与し運営の充実を図るということで、予算168万のうち、補助金90万を申請している。

予算書のとおり、今年の補助金が90万、体育協会の負担金が78万。78万は会費等で運営している。

支出については、人件費、会議費、渉外費、旅費交通費、役員報酬費、諸会費、通信運搬費、事務消耗品費、支払手数料、租税公課、雑費等で168万になっている。

体育協会の事業としては、スポーツ教室や大会に対して市民スポーツの普及推進事業ということで東京都の補助金をいただき、ジュニア育成事業とシニアスポーツ事業を行っている。

清瀬市ではスポーツフェスティバル、マスターズ大会などの事業を行っている。総会の議案書の17ページにあるように、毎月不定期ではあるが、アミューで理事会を行っている。

18ページにあるように、毎月1週目に役員会執行部会を行い、運営している。こちらの事業運営費で90万を申請している。

2点目に、令和8年度都民大会、市町村大会に参加し、好成績を上げることを目指すということで、市内スポーツマスターズ大会には日頃の練習成果を発揮できることを目指し、東京都スポーツ協会他、主催のスポーツ大会に参加しており、日頃の練習の成果を発揮して技術向上、心身の健康保持・促進に重要な役割を果たすものということで、予算は30万円。こちらは資料の15ページと16ページの2段目に、東京都スポーツ大会、スポーツフェスティバル東京、そして今行われている市町村総合スポーツ大会。今年は清瀬市が軟式野球とソフトテニスの会場となった。その補助金として30万円を申請している。

最後に、清瀬市民スポーツフェスティバル事業促進のための補助金申請だが、こちらは清瀬市体育協会主催で今年は第3回目になる。

市民の技術レベルの向上と、市民の健幸に対する意識を高め、市のスポーツ振興、生涯スポーツの発展に寄与することと、清瀬市体育協会の活動を市民にアピールすることに対して、予算を40万円とっている。

市の補助金で40万円。会場費、保険料、事務用品、看護師他謝礼、消耗品、会議費、イベント用品レンタル料と、熱中症予防費、雑費等を計上して40万円としている。

内容としては、10月12日のスポーツの日に、清瀬内山運動公園サッカー場の人工芝のグラウンドで開催する。参加対象者は清瀬市民と近郊の皆様、清瀬市内小中学生と清瀬市体育協会加盟団体である18団体の関係者やその家族・友人など。

参加費については、昨年社会教育委員の会議で話したときには300円を徴収するとしていたが、予算の中で上手く賄い、今年から入場無料で試してみるということで無料にした。やはり300円を徴収すると参加者が思ったより少なかった。今年無料にして、無料だったら来るのか少し試験的な部分もある。

イベント内容としては、運動会の季節なので、ミニ運動会で玉入れや綱引き、大玉競技など。健康チェックや体力測定、血管年齢チェックなど考えている。

また、新しくニュースポーツの体験会やウォーキングサッカー、清瀬市体育協会の加盟団体の紹介でデモンストレーションをできれば良いと考えている。

そして、市長や教育長に来ていただき、人工芝のクラウドで大玉や、綱引き、玉入れをして盛り上がっていききたい。今までは子どもがメインだったが、やはり大人も来られるような内容に変えていきたい。

このようにスポーツフェスティバルが40万円、都民大会等の派遣に関わる費用として30万円、清瀬市体育協会の運営に関する費用で90万円の3点を申請している。

(倉持議長)

ありがとうございました。それでは、質問はあるか。

(松山委員)

第11号の支出の部の都民大会、市町村大会で、それぞれ103,270円、46,730円とあるが、これはその下の内訳の合計か。

(玉置委員)

そのとおり。参加費、開会式の交通費、剣道・卓球・軟式野球・テニスは各会場への交通費を算出している。

(松山委員)

備考に何名と記載されているのは交通費ということか。

(玉置委員)

交通費である。会場により若干金額が異なっているが、備考に交通費の人数を記載している。清瀬駅から会場までの交通費で、電車バスを利用した公共交通機関で向かう金額を算出している。

(倉持議長)

スポーツフェスティバルが3年目にして、また色々と改善をされるようで興味がある。参加者については去年思ったより多くなかった。1年目よりは2年目は増えているのか。

(玉置委員)

ほぼ横ばい。この日は体育の日のため、各地で大会が多い。他でも色々なものを開催している。そちらを優先しているのが1つの要因かも知れない。

そのため、清瀬市体育協会加盟団体と記載はあるが、例えば野球やサッカーは大会でどうしてもなくなるため、逆にあまりスポーツをしていないような人たちや、小中学生を取り込みたいという考えはある。

(倉持議長)

普段から体協の活動をされている方よりは、普段はあまり関わってない層に関心を持ってもらうということか。

(玉置委員)

無料にしたら、そのような人も来るのではないかと考えた。世代もその子どもだけではなく、親子とか大人も一緒に楽しめるといような中身にしたい。会場が不便な場所なので、多分子どもだけでは来ない。アクセスが不便で、親と一緒に連れてくるような場所である。

(倉持議長)

入場無料の背景にある理由がとてもよく分かった。ありがとうございます。
他に意見はあるか。

(渋谷委員)

フェスティバルの会場には、あまりスポーツをしていない人や高齢者、警察などの方も来ていると伺った。救護施設などは準備しているのか。

(玉置委員)

派遣の看護師を呼んでしっかりと準備している。ただ、人工芝のため、準備はするがあまり怪我をしない。体調が悪い人もあまり出ない。綱引きなどで小さな子が少し擦りむいたというのが去年1件あったぐらいで、大きな事故はない。ただ、体制としてはきちんと看護師に待機してもらっている。

例えば、高齢者の方が来られるように、ゲートボールやグラウンドゴルフなど体験ができるようにしたらどうかという意見を委員の中で出し合っている。

(倉持議長)

最近は色々なニュースポーツに関心を持たれたりするようになってきている。

(西田副議長)

一般の方を対象にということで、その広報などについてお伺いしたい。消耗品のところでポスターや看板が上がっているが、一般参加者を増やすための広報や周知の仕方など、今の段階で考えはあるか。

(玉置委員)

元々は小中学生が対象だったので、ポスターなどは学校と市役所と児童館、市民センター、ころぼっくるなどに告知をしている。個別に周知はあまり出来ていない。SNSなどの発信も視野に入れたい。清瀬市体育協会としては、昔のツイッターをしているが、清瀬市体育協会をまず見ないと思うので、その辺をどうしていくか。

あとは市報。昨年、市の方において記事を掲載したが、4行ぐらいのとても小さい記事だった。秋は行事が多いから仕方ないが、少し大きめで記事を掲載したいと考えている。

(松山委員)

チラシなどは作るのか。

(玉置委員)

チラシはいつも作っていて、プログラムも配布している。

(倉持議長)

ありがとうございます。ぜひ参加者が増えることにつながると良い。

特に異議等の意見はなかったが、体育協会から申請された3つの補助金の交付について、承認ということではよろしいか。

(一同、異議なし)

(倉持議長)

では、承認とする。

それでは、議題2、不登校支援ネットワーク・フォーラムについて、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

不登校支援のネットワーク・フォーラムについては、これまで倉持議長と西田副議長、それと事務局で事前打ち合わせを行い、不登校支援ネットワーク・フォーラムの開催に向けた準備を進めてきた。その打ち合わせ内容をもとに資料をまとめた。資料の不登校支援ネットワーク・フォーラム（案）について順番に確認する。

事業名は、令和8年度清瀬市不登校支援ネットワーク・フォーラム。実施目的については、不登校に関係する多様なネットワークを広げ、つながることにより、学校内外の子どもの豊かな居場所づくりに向けて協働していくことを目標に、本事業を開催する。

実施主体については、清瀬市教育委員会の教育委員及び清瀬市社会教育委員による共催となっている。実施概要については、開催日時が令和8年8月30日の日曜日、午後1時30分から午後4時15分まで。会場はしあわせ未来センター2階ボールルームで行います。

内容については、開会の挨拶として倉持議長からご挨拶していただく。

事例報告が3点、1番目が現状報告ということで、昨年登壇いただいた教育指導課の宮野担当課長に、今回は不登校の現状についてご説明いただくことを承諾済み。

2番目が不登校経験者の事例発表として、清瀬市内中学校出身の女性の方1名と、男性の方1名に打診し、参加について内諾をいただいた。当日はインタビュー形式でお話いただき、インタビュアーは倉持議長に担当していただく。本人たちには自己紹介シートを提出いただき、登壇時にプロフィールとして紹介することを内諾済み。自己紹介シート自体は形式を統一したいので、本人からの聞き取り内容を事務局で作成したい。

3番目が、不登校経験者の保護者の事例発表ということで、3人のお子様をもつ女性の方に打診している。次男の方が不登校を経験しており、登壇については既に承諾を得ており、次男本人の了承も得られているとのこと。他の自治体で発表経験がある方で、その際の資料を使うと伺っている。

不登校時の経験や保護者の想いというものを発表し、資料作成については西田副議長にも支援いただき、発表当日については西田副議長より紹介いただくことになっている。

事例発表についての正式な依頼は、事務局から改めて行う予定。

その後は質疑応答で、質問については一旦司会で受けていただき、発表の3人に対しては、答えたくない質問には答えなくてもよいなど配慮を行う。

また、不登校の子どもの生の意見を取り入れるため、西田副議長を介して、ウイズアイに来ている子どもに対して、ロゴフォームを利用した意見の聞き取りを実施予定。聞き取り内容については「ホッとできる場所」や「ホッとできる時間」というものを想定している。それをA4資料1枚にまとめ、当日資料として机上配布し、グループワークに活かしたいと考えている。

質疑応答後、休憩を挟み、グループワークに移る。参加人数にもよるが、だいたい5、6グループぐらいに分け、各グループに社会教育委員と参加する教育委員に入ってもらい、ファシリテーターについては基本的に社会教育委員に行ってもらい。当日の社会教育委員の出席は、倉持議長、西田副議長、松山委員、渋谷委員、玉置委員の5名を予定し

ている。社会教育委員が入らないグループに関しては、宮野担当課長にファシリテーターをお願いしたいと考えている。

事例報告後、不登校経験者の方と保護者の方については、30分ごとにグループを移動していただく。30分経過したら事務局から声掛けをし、特定のグループに張り付かないようにする。

不登校経験者のうち1名の方については、本人の希望によりグループ移動はせず、入ったグループでグループワークに参加していただく。登壇者が回ってこないグループがあれば、教育長か宮野担当課長にそのグループに入っていただく予定。

グループワークが終わり、全体発表については、グループで話し合った内容を各グループから代表者1名に発表いただく。その後、教育委員より講評をいただく予定。

最後に閉会の挨拶として、教育長に挨拶をいただくことを了承済み。

当日の録画配信について、プライバシーへの配慮のため、当日の動画配信は行わず、録画したものを後日限定公開とする。

広報は、市内小・中学校、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、学校運営協議会、学校支援本部、子どもに関連する部署である教育指導課や子ども支援課、子ども家庭支援センターへ広報した。

最後に予算措置について、予算は東京学芸大学社会連携支援事業を活用予定で、前年度の支援額における執行額の80%を上限として支援される。この支援額については、3人の登壇者へ均等に分けることを想定している。

次に、タイムスケジュールについて、11時半に事務局が集合。会場設営後、休憩を挟み、12時50分に学芸大の学生に集合いただき、受付の説明を行う。その後、午後1時に社会教育委員と教育委員に集合していただき、当日の流れの説明を行い、同時に受付を開始。

1時半から倉持議長に開会の挨拶をしていただき、その後、事例発表として不登校の現状を10分、不登校経験者のインタビューで25分、不登校経験者の保護者の発表が15分、その後、質疑応答が10分ある。

その後休憩とするが、質疑応答の時間が15分ほどに伸びた場合、休憩を5分とし、グループワークを1時間取る。そのあと全体発表、講評と続き、最後に閉会の挨拶。

大体4時15分ぐらいから撤収作業としている。

まだ司会者を誰にするのか決まっていないので、そこから決めたいと思う。

(倉持議長)

前回の会議と今回の会議の間が空いたので、皆さんにもタイトルや原案についてメールでやり取りした結果がこのような形になった。今日は広報チラシも資料に付けていただいた。大きなタイトルは変わらないが、副題については皆さんの意見を合体させて確定した。

登壇者の方については、不登校経験者の方は大野委員から紹介いただき、保護者の方は西田副議長から紹介いただき、伴走で資料作りなどをサポートしていただいている。

役割分担については、皆さんにはいつものようにグループのファシリテーターを行っていただくということでお願いしたい。教育委員にも打診したが、ファシリテーターは慣れていないため、ぜひ社会教育委員をお願いしたいということなので、教育委員にはサポートしていただく。

司会については、玉置委員いかがか。玉置委員はしっかり進めていただくという信頼が

あるが、いかがか。

(玉置委員)

分かりました。

(倉持議長)

ありがとうございます。

では、司会は今年も玉置委員にお願いする。

全体の流れや質問などはあるか。いつものように、たくさんのことをやろうとしているフォーラムだが、グループワークの時間はしっかりと確保し、前回の感想を見てもやはり良かったというような意見をいただいている。

狙いがネットワーク、つながりを作るということで、この時間を確保しつつ、前半で少し話題提供するという流れで考えた。大体の流れはよいか。

(松山委員)

気になったのが、最初の事例報告があり、不登校経験者と保護者の方にグループに入ってもらいと自由な会話になっていくと思うが、こちらが配慮しなければならないことやそのあたりのルール設定などはあるか。その場の雰囲気で作れるとは思いますが、どんな方が来るのか分からないので、どんなコミュニケーションを取るか、気持ちというか、初めての方なのでどのようにすればよいか。

(倉持議長)

グループワークに参加いただくこと自体は了承いただいている。今回のテーマについても了承いただいている。グループワークの時に1人だけ、移動するのは遠慮したいと言っていて、移動せずに一か所だと要望をすでにいただいているが、もう一度何か配慮が必要なのか確認するのがよいか。

(西田副議長)

保護者の方にはNGワードみたいなものがあるか聞いたが、大丈夫だと言っていたので、あとは答えたくないところは答えないというルールがあるとよいかも知れない。他の登壇者の方にも確認していただきたい。

(事務局)

事務局から確認する。

(倉持議長)

後半のグループワークでは、本来の趣旨でいくとタイトルにあるように、ホッとできる場所を清瀬市内でどのように作り、増やしていくかとか、不登校支援について学校内外で色々な人が作っているところとどのようにつなげていくか、というところがテーマである。

自己紹介だけで結構時間がかかるのは例年の通りだが、自己紹介をして、活動内容やどのような居場所づくりをしているか、どのような不登校支援の活動をしているかということも、それぞれの参加者に話していただき、そのようなホッとできる場所を増やして広

げていくか、支援者同士や居場所同士がどのようにつながっていくかというテーマの中で、登壇者の方の経験を聞くなど、そのような形で進める。

(松山委員)

そのようなイメージがよいと思う。質問していくというよりは、同じテーマをそれぞれの立場で話し合う。グループワークのテーマを出した方がよいのではないか。それに向けていかないと発表の時に大変になると思う。

(倉持議長)

では、グループワークのテーマは先ほどの「ホッとできる場所」をどのように広げていくか、その場所同士をどのようにつなげていくか、という感じで、それを司会の玉置委員に言っていただくのはいかがか。テーマがある方が話しやすく、話が拡散しない。

やはり居場所を増やすことと広げること、つながっていくことが2つの大きなテーマ。それについて話すこととしたい。経験でもよいし、アイディアでもよいし、課題でもよい。

ただ、どうしても当事者の話を聞くという貴重な体験なので、グループに当事者の方が入ることで、そこに話が集中して色々なことを聞きたくなる。聞いてもよいけれど、ただ聞く、インタビューするという趣旨ではなく、来場者の方も一市民として、どのように一緒にこの場を作り、増やし、広げるのかということをお話していただくためのヒントとして、当事者本人の話を聞くという形で進められたらよい。登壇者は地元の若者、保護者の方も地元の方なので楽しみだ。

また、今日の資料にもあるが、不登校経験者に事前にインタビュー内容を伝える方が本人たちも準備ができるのではないかとということで、事務局でインタビューの質問をたくさん考えてくれた。時間が限られているので、おそらくこれほどたくさんは聞けないと思う。

私がお場で色々変えてしまうかも知れないが、今日皆さんにこちらを見ていただき、これはぜひ取り上げて触れてほしいとか、これはあまり聞かなくてもよいのではないかと、いうものがあれば、今日の段階で皆さんの意見を伺っておきたい。

(松山委員)

自己紹介シートをいただくのはとてもよい考えだと思うが、どのような内容なのか。現在の仕事などを伺うのか。

(事務局)

ホッとできる場所や時間、趣味や特技、好きなこと、学校に行きづらくなった時期と期間、現在の状況など、そのようなことを共有しながら話した方がよいかと考えている。

(倉持議長)

最初に少し自己紹介をしていただこうと考えている。事務局が事前に聞いたことはスライドに入れて投影されるので、おそらく本人もそれを見ながら紹介してくれると思うが、それをこちらで深掘りするような感じになると思う。何か気になる質問はあるか。

(松山委員)

そういうことだと、例えば質問の2番目、どのように過ごしていたか、7番目、どのように今の状態になれたのか、9番目、マイナスの経験に思われる経験が役立つことがあったのかなど、時間が許すのであれば聞きたい。

(倉持議長)

質問の2、7、9番を意識したいと思う。

(西田副議長)

質問の7だが、聞き方として、この「つながり直す」というのは、こちらで勝手に分断を決めつけている言い方が嫌だと思った。家にいたら駄目という印象もあるので、何かこの表現をもう少し柔らかくしていただけないか。「学校以外の」とか、居場所なのか、人なのか、表現は色々あると思う。

(倉持議長)

確かに、最近では不登校というよりは、学びの多様化と言うこともあるので、価値観が言葉に表れてしまうため難しい。

学校に戻るということも、もちろん一つの選択肢ではあると思うので、表現を模索したい。

(松山委員)

西田副議長に伺いたいですが、例えば不登校だった当時の気持ちや心身の状態となると、自分をもしかしたら否定したい気持ちもあるかも知れない状態だとして、気持ちが「もうこれでよいのだ」と思えるようになったとか、「何かに挑戦してみよう」という気持ちが出てきたなど、気持ちの変化や行動の変化のきっかけを聞くのはいかがか。

(西田副議長)

今は過渡期というよりも、人前で発表ができるということなので、もう一段落して、きっとここへ来てくれるのだと思っている。そのような聞き方でよいと思う。

(倉持議長)

ありがとうございます。

気持ちの変化や行動の変化、その辺を少し文脈で聞くという感じで考えたい。

その他の意見はいかがか。

(玉置委員)

登壇者の方について、事務局がコンタクトを取り、色々と情報などを得ていると思うが、この場ではやはりプライバシーに配慮して言えないということか。

どのような感じの不登校であったなど。

(事務局)

電話ではなくメールでのやり取りのため、自己紹介シートを作るやり取りなど、詳細についてはこれから詰める段階。

(倉持議長)

それが分かったと状況によって質問も変わる。深刻度合いということではないが、重いとかトラウマがある人には、これは聞けないという質問もある。全く違うタイプかも知れない。今分かっている情報は、大野委員と同級生で、市内中学校の出身ということ。

また自己紹介シートが出来て、少し状況を見て考えるということも大事。

(渋谷委員)

私は16番が聞きたい。配慮ではないが、学校としては来てほしいなど色々あるが、どのように関わっていけばいいのか、何か意見を聞きたい。一人一人により対応が違うと思う。

(倉持議長)

この登壇者2人の目線から、どのようにあってほしいか、どのような支援があればよかったかなど。

(渋谷委員)

当時学校として、周りの人はどのように色々と関わればよかったかなど、そのようなところを少し聞きたい。

(倉持議長)

こちらが色々取り組んでいることが、実際に当事者としてはどうなのかというのは聞いてみたい。なかなかこのような機会はない。

当日皆さんには午後1時に集合していただき、始まるまでの30分の間に、困ったら皆さんに聞きに伺うので、これでよいのではないかと教えていただけたらと思う。

今日ちょうど学生から、手伝いに行くというメールが届いた。あと2、3人は手伝える学生を確保したいと思っている。

事前申込の定員は40名。まだ申し込み期間中なので、皆さんの周りにも声掛けください。ちょうど夏休みの終わりなので、2学期が始まると、夏休み明けは一気に不登校が増える。そのため、問題・関心が高まる時期でもあると思い、色々事務局からも声掛けをいただいているが、多すぎず少なすぎず、ちょうどよい人数を目指しているので、ぜひ色々な立場の方に参加いただけるとよいと思っている。

それでは、議題3、清瀬市生涯学習基本方針について、事務局より説明をお願いしたい。

(事務局)

前回までの会議と事前打ち合わせで話し合われた内容に則して、事務局で修正した資料の清瀬市生涯学習基本方針を確認してほしい。

まず、文章中の表現で、四角く囲った箇所が修正の検討箇所。山括弧が文章中に入れた表現としている。

修正した内容を一旦すべて確認すると、目次の次の「Ⅰ生涯学習基本方針の概要 ①基本方針の目的」で、「近年の急激な少子高齢化～、関心も高まっています。」までについて、作成したのは令和3年であり、現状に合わせた表現の変更が必要かどうか検討してい

ただ、事前打合せで出た意見としては、「近年の急激な少子高齢化」は「人口減少社会」という言葉に置き換える。「Society 5.0の到来」も「AIの活用」に置き換えている。

次のSDGsの表現は、第3次教育振興計画の表現と合わせたものに修正している。

次の段落の「あらゆる機会に、あらゆる場所において～豊かに生をまっとうすること」を一旦削除し、「全ての市民が気軽に学習にアクセスでき、対話を通じた主体的な学び合いの中で、自己成長の追求と世界が広がる学びの楽しさが、個人のウェルビーイングを向上すること」に修正している。

そのあとの＜地域や社会全体の幸福＞については、このあたりに入れたい表現として、仮に置いているものである。

その6行先、「また、市民相互のつながりの場を提供する」の後に、個人と地域社会の双方向性が見えるように表現を足し、「市民相互のつながりの場を提供し、個人と地域社会における双方向の循環のために」と修正している。

次の段落は、清瀬市長期総合計画と清瀬市教育振興計画の新しい計画が今年度策定されたため、それぞれ「第5次清瀬市長期総合計画」と「第3次清瀬市教育振興基本計画」に修正している。

次に、この段落の最後に「還元」という表現が出てくるが、これまでの会議での協議を踏まえ、「循環」という表現に修正したいが、第3次清瀬市教育振興基本計画では、還元という表現のままとなっていたため、文章全体を修正して、「教育総合計画においては、」を削除し「他の施策との連携を図りながら、修得した技能や知識を地域づくりに、さらに、地域から個人へ循環していくことを目指します。」と修正した。

このページの最後の段落、「教育振興基本計画」に修正した。資料では学校も削除されているが、「学校、大学等教育機関」と修正した。

次のページの②生涯学習の意義と必要性については、民間と行政の関係性について記載したいため、「地域づくりやまちづくりに活かしていくことが重要です。」となっていたところを、間に文章を追加し、「地域づくりやまちづくりに活かしていく一方で、民間と行政が相互に補完し合って連携・協働していくことが重要です。」と修正した。

その下の図も、倉持議長から提示いただいた文科省の図に変更する。

次のページの③市との関連計画との関係については、こちらも最新の計画に修正した。

次の④基本方針の期間については、現行方針の期間を1年延伸したことにより、今後、上位計画の開始期間と1年間のずれが生じている。そのため、次期方針の期間を5年間ではなく4年間と設定することにより、上位計画と期間を合わせることも可能だが、事前打ち合わせで検討した結果、生涯学習基本方針の推進期間が短くなってしまうため、次期方針の期間は従前どおり5年間とした。資料では令和13年度、2030年度となっていますが2031年度の誤りのため、こちらも修正する。

次のページのⅡ本市における生涯学習を取り巻く現状と課題については、市政世論調査の結果を最新のものに修正する。グラフについては、本来の世論調査の結果をすべて掲載しているわけではなく、任意の範囲で掲載している様子で、体裁については今後検討が必要。

P12の調査結果の「身近な公共施設の再編に関するアンケート」については、令和2年度以降実施されていないため、掲載するにはデータが古いため削除する。

13ページのⅢ生涯学習基本方針の方向性①基本目標については計画名の修正と、現行

では基本理念が「学びと育ちの循環型社会」とあるが、そもそもの基本理念というものが「子どもが育つ 市民が育つ まちも育つ 清瀬の教育」であり、そのあとに「学びと育ちの循環型社会」と続くため、そのように追加し修正する。

そのあとのイラストについては、還元という文言が入っていることもあり、イラストの変更または削除する。

次に、14ページの【施策の体系図】については、玉置委員から提案いただいた図を追加している。

7月3日に中央教育審議会の生涯学習分科会社会教育の在り方に関する特別部会があり、そこで示された資料1-2も参考としたい。事前打ち合わせで出た案としては、円錐のような形はどうかという意見があった。3つの基本方針が循環する図とするとともに、基本目標に全体が向かっていくような体系図となるように再修正する。

ここまでがこれまでに修正した生涯学習基本方針の内容の説明である。

(倉持議長)

前回の会議での意見や正副議長と事務局との打合せを経て、今日の資料にこのように修正案が出来ている。どこからでもよいので、意見・質問があるか。気になるところはあるか。

15ページ以降の基本施策の方向性については、今後、検討する。今はまだこの大きな枠組みのところをまず固めないと、具体的なところは検討できない。15ページのこの図も大分苦勞して作っていただいているが、もっと何かできるのではないかとやっているところである。

以前はいわゆる表のような感じだったものを、還元ではなく循環としているので、この方針も中心にこの基本的な目標を置いていて、それがそれぞれ目標のところに関わっていて、周りにこの人づくり、つながりづくり、地域づくりとしている。どれが上とか下とかではなく、循環し合っているというような感じに作り直していただいた。先ほどの中教審の資料を見ると、カラーにするとこれほど分かりやすいのかと思った。

国の答申がおそらくそろそろ出てくる。そこで新しい図が出てくるかも知れないので、出たら、それも間に合うので検討する。それを使わなければいけないということでもないので、今作っていただいた図の方向でよいと思うが、皆さんいかがか。一旦受けとめてよろしいか。

(松山委員)

1ページ中央のあたり、「個人のウェルビーイングを向上すること、またそのための支援の在り方が問われています。地域や社会全体の幸福、さらに市民一人ひとりが生き生きとした生活を送るとともに」となっているが、むしろ先に個人の生活があり、一人ひとりの幸福とか生き生きとした生活があって、さらにその上で、その個人が構成する社会が全体的によくなるという私のイメージがある。

(倉持議長)

順番はどちらが先か分からないが、説明をするときはだいたい個人の説明をされて、地域や社会の説明をされて、両輪という感じで書かれていることが多いので、説明の順番としてまずは一人ひとりというのがよいのではないかとということ。

おそらくこれはまだ、元の文章と新しく更新した文章の順番が行ったり来たりしているのだと思う。新しく書き直したところのさらに後半の部分も、もう少し整理して噛み合わせるようにしたい。

(渋谷委員)

おそらくアメリカ的な考えだと、個人の幸福からつながっていくと、社会全体になってくる。

日本的な考えだと、人に奉仕するとか、社会が幸せになると、一人ひとりの幸せになっていくのだと思う。そのためにいろいろと社会で参画していきましょう、総がかりでやっていきましょうという思いが強いような感じがある。そのため最初にこの表現を持ってきているのかという印象を受けた。

(倉持議長)

このウェルビーイングが取り上げられるときには、日本型とかよく言う。社会貢献のような社会を作る活動そのものが、個人にとっても自己肯定感とか、そのように自分のメリットにもなるというようなイメージ。社会に貢献しているが、自分を犠牲にするとかではなく、実はそれは一人ひとりの個人の幸せにもつながっているというような意味合いの強いことなのかと思う。この辺の言葉の順番や説明の仕方はそのような印象がある。

(松山委員)

単純にこれは感想だが、基本調査の結果を拝見して、7ページにある、地域活動に関する内容がとても低く、何かちょっと寂しいと思った。伝統行事や、11ページの、安心して出産・子育てができるまちだとか、子どもが地域等で自分らしく表現する場が十分あるとか。

(倉持議長)

清瀬に限ったことではないと思うが、このような調査を行うと、どうしても少しせつない感じになる。

(西田副議長)

清瀬に出産できる病院がない。大体それで付けられることが多いのではないかと思います。

(渋谷委員)

おそらく松山委員のおっしゃっているようなことは、最初の世論調査の5ページにもある。文化やいろいろと聞いたり見たりする講座などは年々割合が減っているが、この職業的知識や技能は身につけたい、そのような講座は年々増えている。段々と鑑賞の機会は別に期待ではないが、望んではいないということが徐々に目立ってきている。とにかく何か知識や技能を身につけたいという方が増えてきている。

そのため文化的な面で心豊かにするようなものはあまり期待していないとか、どちらかといえば即実践ではないが、自分で何かそのような知識などを得たい。

(倉持議長)

今回はちょうど最初の議題が文化協会から始まった。それこそ、子どもたちが発表する場があるということで、かえって子どもの参加者が増えているという話は、世代交流や地域のそのような資源の発見のようなことにもつながる。先ほどのスポーツフェスティバルもそうだが、そのようなものをきっかけに、参加している方にも意識していただける場になるとよい。

意識していないだけの可能性ある。実は関心を持っているが、それをこのような調査のところでは反映しないということ。それがメインではなかったりするので、おそらく自分の理由で行くのだが、実は関わっていることに関心が育っているということはあるかも知れない。

(渋谷委員)

結果を見ると、スポーツは好きなのかも知れない。

(倉持議長)

私は市の長期総合計画の会議に出ていたら、結構若い世代の方が参加されていたが、皆さん自然や緑に対するアイデンティティーはすごく高く、清瀬らしいところがあるようだ。まちと緑が共にというところ。そのようなことは環境か。文化とは少し違うかもしれない。

(渋谷委員)

市である程度取り組んでいるので、これ以上は別に望まない、満足しているということかもしれない。

(松山委員)

それで言うと、9ページの自然環境及び文化保全に参加したいというのが高い。

(倉持議長)

ギャップがとても大きい。今はしていないけれど、したいの割合が高い。そのような機運は醸成されているのかもしれない。

趣味やサークルをしてみたいけれど、時間がないとか、きっかけがないとか、その種類も変わってきている。

学習機会の提供の仕方やアプローチの仕方、大きなジャンルでいうと趣味サークル活動だが、中身やタイミングや場所、やり方などもそうだ。読み込んでいくとなかなか面白い。

他に何か意見はあるか。

修正の方向性としては、先ほどいくつか指摘いただき、表の読み取り方についてはいろいろと意見をいただいたが、赤青の修正の方向性については、特に違和感はないということなので、引き続き進めていく。

教育委員会へ提言を出すタイミングが2月。次回は9月、12月、2月。しっかりと議論ができるのが実質9月で、12月は教育委員との懇談会があるので、通常より圧縮した時間で行わないといけない。

2月は提言として提出するので、次回で内容を詰めていくことになる。

会議の合間のタイミングでも、もし何か気付いた点があったら、意見をいただければ助

かる。

では、議題３は以上でよろしいか。

それでは、東京都市町村社会教育委員連絡協議会第１回理事会について、事務局より報告をお願いします。

（事務局）

東京都市町村社会教育委員連絡協議会第１回理事会について、７月１７日に開催され、八巻主事が参加した。

会議の中で気になった点としては、都市社連協から脱退する市があるという話があったということ。

（倉持議長）

東京の多摩地域支部は、ほとんどの自治体が入っている。いくつか抜けているところもあるが、社会教育委員の会議を各自治体が持っている。脱退されたということで、私は衝撃を受けた。同じようにその会議でも衝撃、波紋が広がったという感じだったと思う。その場で承認というわけではなかったと聞いている。他の自治体が追随してしまうとまたいろいろとあるだろう。

今回も不登校支援のネットワークについて話したが、ネットワークは作るときや維持をするのも大変だと思うが、人やお金のことなどもあり、やめてしまとなかなか作り直すのは簡単なことではないので、社会教育の自治体をつなぐ会は、ブロック研修会なども毎年やり、自治体のカラーが出た研修を組んだり、自主的な活動をしたりしているので、少し心配な動きではあると思っている。

その他、何か事務局や委員から意見はあるか。

それでは、次回の会議は９月１１日の１０時からだが、その前に８月３０日に不登校支援ネットワーク・フォーラムがあるので、よろしくお願いいたします。

本日の会議は以上で閉会とする。